

Milk Hall Times

創刊号

ミルクホールタイムスが創刊されたのは、1986年4月の事でした。それは、マスターの提案で始まりました。きっかけは、当時のミルクホールがとても閑だったという事もありますが、マスターの信念はこうです。『この世の人達はととても退屈しているんだ。ミルクホールの楽しさを新聞みたいなものを作って、お客さんに伝えるべきなんだ。』と... 考えてみれば色んな思い込みでこの世の様々な出来事が起こりますが、まあその時はこんな感じで始めたのです。創刊号の内容は、まず、当時ミルクホールで盛んに行われたダーツゲームのニュースについて。ミルクホールではダーツの指導もしますと書いてあります。また、その月にミルクホールで始めたアンティークオークションの案内。サンドイッチパーティーの形式でエントリーすれば、誰でも参加できました。そして読み物は、開店当時からお店においてあった『落書帳』に書きとめられたお客さんの落書の一つを選んで載せました。当時の落書帳の中には結構面白い話があったのです。

COLUMN

1986年 4月5日発行
ミルクホールタイムス創刊号掲載

ミルクホール落書帳より

首は左に曲げるのは楽なんだが、右となると頭をハンマーで打たれたような感覚が走る。こいつは酒のせいと云うよりも季節はずれの気温のせいだろう。昨夜の酒はすっかりぬけたが、ダラシナイ寝方のせいで首はまったく胴体と無関係に存在している。家からパルを出したが、はたと考えた。右に行くには右を見なければならぬ。ためらいもなく左へ出る。角があると左へ曲がる。.....楽だ。空は気持ちよく晴れている。いくつかの角を左へ曲がるとこの店だった。アメリカンコーヒーとピアノとベース、サクソとドラム。電話の音と水道の音とコーヒーポットの音。ふっと思ったが、この店に足りないのは客だろう。 '79 11・6 YASHI

Milk Hall Times 編集部より

11年前に始めたミルクホールタイムスですが、3年ほど休刊同様の状態でした。ミルクホールのまわりで起こる事件や、自由な投稿、詩やお話などの構成で発行を再開します。今回は、ミルクホールの古くからのお客様であり私達の友人でもある鎌倉在住のアネモネさんより LETTERS をご投稿頂きました。ミルクホールでは皆様からの自由なご意見・ご投稿をお待ちしています

「患者の詩 97.7.20」 アトピーフォーラムにて細谷先生発表

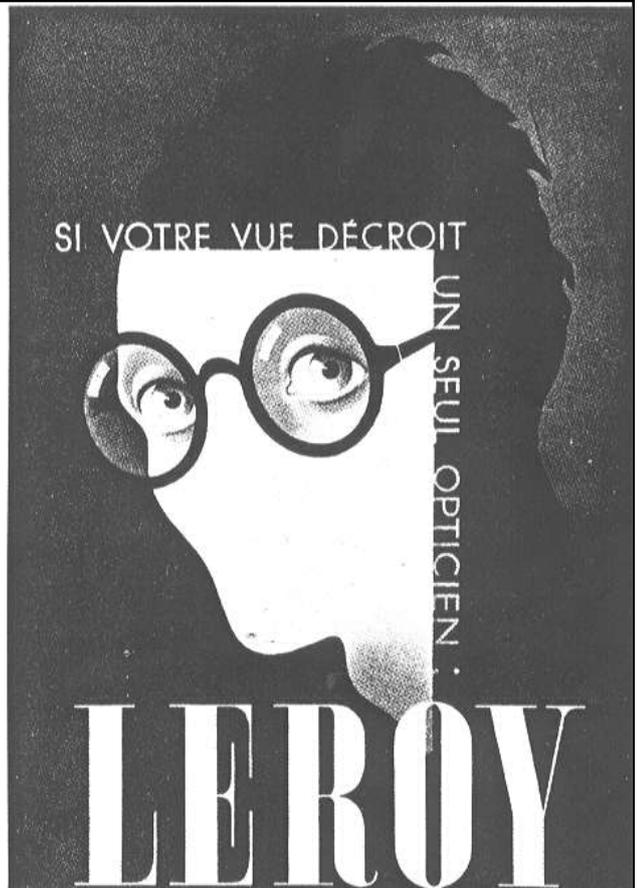
大事をなそうとして
力を欲しいと 神に求めたのに、
憤り深く 従順であるようにと
弱さを授かった
幸せになろうとして
富を求めたのに
懸命であるようにと
貧困を授かった

より偉大なことが 出来るようにと
健康を求めたのに
より良きことが出来るようにと
病弱を授かった

世の人々の賞賛を得ようとして
権力を求めたのに
神の前にひざまずくようにと
弱さを授かった。

人生を楽しもうと
あらゆるものを求めたのに
あらゆることを喜べるようにと
生命を授かった

求めたものは何一つとして 与えられなかったが
願いは すべて 聞かれた
神の意に そわぬ者であるにもかかわらず
心の中の言い表せない祈りは すべて叶えられた
私はあらゆる人の中で
もっとも豊かに祝福されたのだ



LETTERS 病いについて

この間アトピーフォーラムと言うのが慈恵医大でありました。患者と先生方のアトピーについて考える集いです。そこでは結局、根本的な治療法はないこと、成人性アレルギーは増えていて、それは社会の環境悪化やストレスであること、この、社会は変えられないので自助努力をすしかないことが発表されました。人間はいろいろな人がいていいはずなのにマス化して人間さもベルトコンベア処理しようとする社会でストレスは感じて当たり前です。たまたま弱い人たちが発症してしまったのがアトピーです。先生も、患者をベルトコンベア式に薬だけ与えて処理しようとする。そこで、ステロイド病(薬漬けの副作用)も併発しました。私は今通っている井上先生という素晴らしい皮膚科の先生と、その先生の紹介であったカウンセリングの細谷先生によって救われました。その二人がこの間のフォーラムでも素晴らしい発表をなさいました。特に細谷先生の発表された患者さんの詩が涙が出るほど心をつくものでした。もし、ミルクホールタイムスを作られる機会がありましたらこれを載せて頂けたら幸いです。そしてその詩を再び先生に送付していただくまでの手紙のやりとりもここに記載させていただきます。本当に自分勝手な告白で恥ずかしい限りです。でもこれで救われる人がいたらと思ったわけです。

細谷先生へ

今、とっても晴れやかなすがすがしい気持ちです。それは今日の先生たちのしてくださった講演のおかげです。根本的な治療法がないと再確認したにも関わらず、希望が与えられた気がします。(中略) 親は相変わらずで父親は今日のことを言うと「俺が死んだら良くなってくれよ」母親は「そうやって私を責めて潰そうとしているんだ」と歩み寄りはありません。(中略) 過去に何があったかって整理し把握するくらいに分析するべきだとは思いますが。でも一つのことでの自分になったわけではないし、心の傷なんて完全には癒えませんが、治ったかに見えても傷跡は残るし、何かの折りに疼きます。過去のいろんな事で今ある自分が、- 傷を克服するというのはこういうことではないでしょうか? "その傷にまずつかないような強いエネルギーでこれから生きてゆくこと、何かを越えることで自分が大きくなればいって。今日、先生が過去の患者さん達からの手紙を読み上げられていましたが、私もその患者さん達と同じ気持ち - この病気でなければ、人の痛みはわからなかった。それに第一、井上先生や細谷先生のような素晴らしい人たちにぶられることもなかったでしょう。 - それだけでアトピーだった甲斐があったというものです。先生、お願いがあります。あの最後に読まれた詩を頂けないでしょうか? 心の支えにコピーでも何でも頂けないものでしょうか?

お忙しいのでご迷惑ですが出来たらお願いします。私は先生に会えなくなった今も先生の大ファンで、大迷惑かけた患者です。本当にお元気で、またいざね。

細谷先生からの返信

お手紙ありがとうございました。フォーラムで久しぶりにお会いできてとても嬉しく思います。全体の雰囲気が変わっていたのでびっくり、きらきら輝いていて、何が貴方をここまで変えたのでしょうか? 人の命って本当にすばらしい。何が起るか分からないから不思議です。何が起るか全く分からない未来ですが、一瞬一瞬を大切に生きてゆきたいと思ひます